



2015年6月12日

関係各位

Global Dairy Platform
GDP 日本会議 2015
準備委員会事務局
(一般社団法人Jミルク内)

GDP 日本会議 2015 公開フォーラムのご案内

テーマ『世界の食糧・栄養の動向と乳の役割』

2015年7月28日(火) 13:30~17:20

東京国際フォーラム ホール D7 (東京都千代田区丸の内 3-5-1)

「Global Dairy Platform(GDP)」(世界の主要乳業者及び酪農乳業団体で構成する国際酪農乳業組織。本部シカゴ)では、この度、日本では初めてとなる「GDP 日本会議 2015」を別紙「GDP2015 開催要領」の通り開催いたします。

本会議は、世界の食糧・栄養問題において乳が果たす役割、最近の米国・日本などの栄養健康課題と乳の役割について、酪農乳業関係者の中で再確認するとともに、広く国民に対して情報を発信することを目的としております。その一環として、日本の酪農乳業関係者を対象に標記の公開フォーラムを以下の通りご案内申し上げます。

つきましては、関係者の皆様には是非ともご参加いただきたくお願いいたします。

- 日 時：2015年7月28日(火)13:30~17:20 (受付開始 13:00)
- 会 場：東京国際フォーラム ホール D7 (東京都千代田区丸の内 3-5-1)
- プログラム：別紙「公開フォーラム プログラム」をご参照ください。
- 参加費：無料
- 参加対象者：酪農乳業関係者、医療・栄養関係者、メディア等
- お申し込み方法：別紙「参加申込書」を、FAXまたはメールにて、Jミルク内準備委員会事務局までご返信ください。
- お申込み締切：2015年7月21日(火)
- 定員：230名(定員になり次第、締切させていただきます)
- お問合せ先：一般社団法人Jミルク 総務グループ 鈴木
TEL03-6226-6351 / FAX03-6226-6354
MAIL h-suzuki@j-milk.jp



GDP 日本会議 2015 公開フォーラム プログラム

テーマ『世界の食糧・栄養の動向と乳の役割』

13:30	開 会（受付開始 13:00）
13:30～13:40	主催者挨拶（GDP 側の代表）
13:40～13:50	協力者挨拶（日本側の代表）
13:55～14:25	報告 「世界の酪農セクターにおける GDP の機能と役割」 発表 ドナルド・ムーア氏 GDP 専務理事
14:25～15:10	講演 1 「世界の食糧・栄養問題に対し、今後、乳はどのように貢献できるのか」 講師 グレッグ・ミラー氏 GDP 栄養安全部門 主査 (NDC (全米酪農会議) 科学部門 主任専門官)
15:15～16:00	講演 2 「現代日本の健康・栄養の諸課題と乳の役割」 講師 清水 誠氏 東京農業大学 教授、東京大学 名誉教授 (乳の学術連合 牛乳乳製品健康科学会議 幹事)
16:00～16:30	～休 憩～
16:30～17:15	講演 3 「世界の食糧・栄養の主要課題と乳たんぱくの可能性」 講師 ポール・モーガン氏 マッセー大学リデット研究所（ニュージーランド）教授
17:20	閉 会



■ 講師プロフィール

【講演1】 グレグ・ミラー博士

GDP 栄養安全部門 主査/NDC (全米酪農会議) 科学部門 主任専門官)

【略歴】全米酪農会議 (Dairy Management Inc./National Dairy Council (NDC)) の研究、監査及び科学部門 (Research, regulatory and scientific affairs) の主任科学役員、副社長。イリノイ大学食品科学及び人間栄養学部非常勤准教授。1978年、ミシガン州立大学栄養学分野学士課程修了。1982年ペンシルバニア州立大学栄養学(毒物学)分野修士課程修了。1986年には、ペンシルバニア州立大学から栄養(毒物学)分野の博士号を授与される。栄養系の各種ジャーナル編集委員会のメンバーでもあり、これまでアメリカ栄養単科大学学長、アメリカ栄養学会及び国際ニュートリジェネティックス/ニュートリノゲミクス学会の役員会メンバーも務めた。また、120以上のアメリカ国内や国際的な会議での講演や、160以上の研究報告やレビュー・記事及び要約を発表。食や栄養、毒物学に関する本の共同編集や寄稿のほか、乳食品と栄養のハンドブック(初版、2、3版)の共著者。アメリカ国内のTV出演や新聞等で記事での引用多数。

【講演2】 清水 誠教授

東京農業大学教授、東京大学名誉教授

【略歴】1977年、東京大学大学院農学系研究科博士課程修了。1977年に日本学術振興会奨励研究員、その後、東京大学農学部助手、静岡県立大学食品栄養科学部助教授、東京大学農学部助教授を経て、1996年より同大学院農学生命科学研究科教授(2013年に定年退職)。2013年、東京大学食の安全研究センター特任教授。2014年より現職。研究分野は、食品化学、食品機能学、細胞生化学。Shimizu M. and Hachimura S.: Gut as a target for functional food. *Trend Food Sci. Technol.*, 22: 646-650 (2011)、「機能性食品の事典」清水誠共著(朝倉書店, 2007)「ミルクの事典」清水誠共編著(朝倉書店, 2009)、「機能性食品の作用と安全性百科」清水 誠共編著(丸善出版, 2012)。日本酪農科学会賞(2007)、日本農芸化学会功績賞(2008)、飯島食品科学賞(2009)、日本食品免疫学会特別賞(2014)。所属学会は、日本農芸化学会、日本栄養・食糧学会、日本動物細胞工学会、日本食品免疫学会、American Chemical Society など。

【講演3】 ポール・モーガン教授

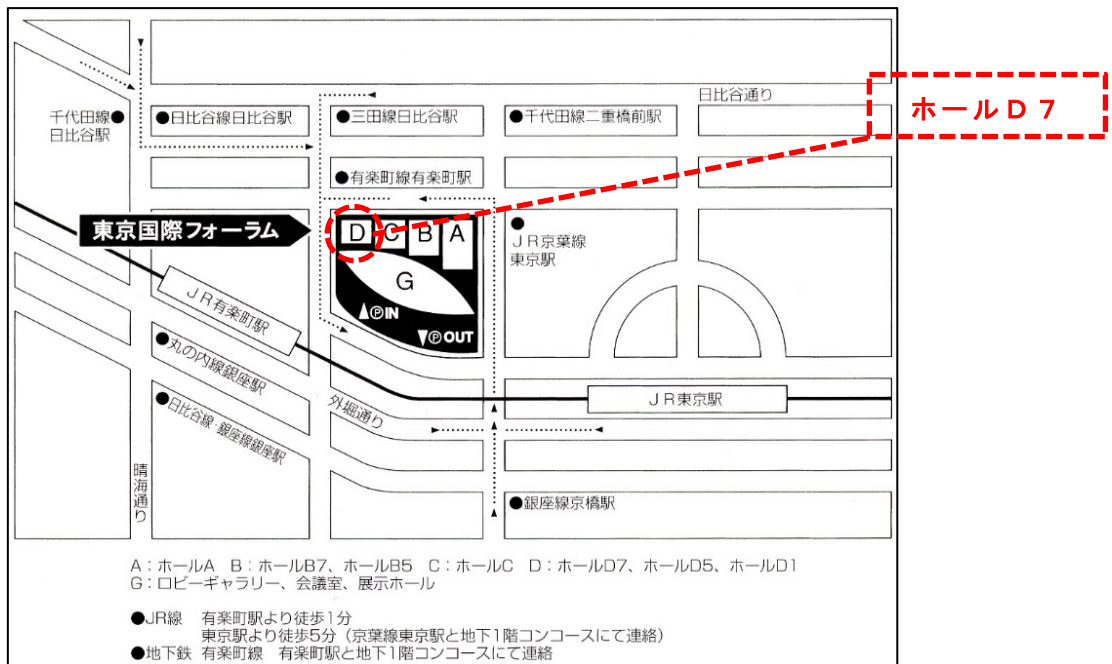
マッセー大学リデット研究所(ニュージーランド)

【略歴】1993年にマッセー大学の最初の単胃生物学講座長に就任、研究はヒトと動物の栄養、食物化学、機能性食品、哺乳類の成長生物学と消化生理学の分野など、今までに400以上の研究論文を発表。1995年に理学博士、1997年にマッセー大学でPersonal Chair(実績に対する教授位)を授与、ニュージーランドの王立協会の会員に選ばれる。英国ケンブリッジの王立化学協会の会員でもあり、2011年に「人間における食事性タンパク質の質についての特徴付けに関する勧告の見直しについて」のFAO諮問委員会会長。2014年には世界食糧安全保障に関する国際シンクタンク(世界科学学会)に任命。その研究活動に対して、2012年のPrime Minister's Science Prize(首相科学賞)を含む、有名な国際的な賞を多数受賞。2014年、カナダのケルブ大学より名誉理学博士を授与。数々の科学出版物編集委員会にも所属、国際的な食品業界へのアドバイザーでもある。



GLOBAL DAIRY PLATFORM

東京国際フォーラム 案内図



東京国際フォーラム ホール D7（東京都千代田区丸の内 3-5-1）



GDP 日本会議 2015
準備委員会事務局 鈴木 宛
(Jミルク 総務グループ)

FAX : 03-6226-6354
Mail : h-suzuki@j-milk.jp

「GDP 日本会議 2015」公開フォーラム参加申込書

1. 日時 平成 27 年 7 月 28 日 (火) 13:30~17:20 (開場 13:00)
2. 場所 「東京国際フォーラム」ホール D7
東京都千代田区丸の内 3-5-1

参加を希望される方は必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてお申込みください。

組織名 : _____

【ご記入者】

ご所属部署 : _____ お名前 : _____

TEL : _____ FAX : _____ E-mail : _____

【ご参加者】

所属部署	役職	氏名

※参加申込締切 平成 27 年 7 月 21 日(火)

※本紙でのお申込みをもって、受付完了とさせていただきます。

※定員に達したためご参加いただけない場合のみ、当方から 7/22(水)までにご連絡させていただきます。